

編集後記

「病院」も各方面の御協力によつて順調な発展の途をたどつて参りました。皆様の御期待にそうべく、ここいらで編集の上でも飛躍をとげようと努力いたしております。本号は思いきつて投稿原稿にページをさいてみました。いつもの号と執筆者の顔ぶれのかわつているのも清新な感じをあたえることと思います。「病院」の窓はあかるく各方面に開放されておりますから、御意見のある方はどしどし率直な声を反映していただきたく思います。それによつて「病院」はさらに現実・具体的な問題をとらえて発展してゆくコースをとりたく思います。第1巻の頃にくらべると第2巻に入つてから、問題が総論を卒業して各論的に掘り下げられていることを痛感いたします。

巻頭には橋本先生のアメリカ見聞記をいただきました。先生らしいフレキシビリティのある感受性にうけとられた病院問題の数々——それは目下日本においても最も焦点となつている事柄であると信じます——が明快に論じられております。日本の病院問題の今後に示唆するところ多大で、熟読を御願したい一文です。病院管理を論ずる者がその名を没することの出来ない MacEachern にも親しく会つて意見を交換して来られた御土産の一つが本誌にのせた署名です。

家田氏の論文は院長心得帖とでもいうべき事柄がこまかい神経で平易に語られています。前号の東一栗山副院長の原稿や、このような原稿が得られるようになったことは「病院」の一つの発展として喜んでよいことと思います。小林仙次氏は前号に続いて病院建築についての多年の経験に基づく該博な知識を縦横に駆使してわかりやすく各論を展開しておられます。皆様の味読を御願い致します。吉田幸雄、守屋博氏の所論はいよいよ核心にふれて参りました。

藤森氏の着実な研究データに基づく論考が得られました。松野・清水両氏による研究成果の発表も興味深く読まれます。このような研究はどしどし「病院」に御寄せ下さい。米持氏から本誌掲載論文についての反駁が参りました。「病院」はよい病院をつくるための論議にはいつでも誌上を提供いたしますから活潑に御意見を開陳していただき度く思います。

病院管理研修所で過日ホテル・テイトを見学していろいろ得るところがありました。島内氏に依頼してその一端を記していただきました。アメリカ映画「蛇の穴」(Snake pit) は精神病院の内部と患者に対する取り扱い方の問題についていろいろ考えさせる点を持っておりますので、国立国府台病院長から名大教授になられた村松常雄氏をかこんで座談会をいたしました。この記事は次号に掲載いたします。

本号から病院管理者にとつて必要な知識を誌上模範試験の形で連載することにしました。第1回の出題並びに解答は尾村氏に御願いたしました。病院管理者にとつては極めて常識的なものですが、案外な陥穽がないとも限りません。解答が別頁についておりますから皆おためし下さい。試験ばやりの折から何かのお役にたつことと思います。

聞くところによると或る病院では雑誌「病院」を20部求めて皆に読ませているそうです。いまの日本の現状では意欲と生活の現実が極めてアンバランスな状態にあると言えますが、上述のような病院が一つでも増加してゆくことが病院問題を解決してゆく曙光のバロメーターになると思います。雑誌「病院」を皆様のものとして支持してゆくことを御願いたします。

(編者)